

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和4年度 第3回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)		参画協働課		
開催日時		令和5年2月15日(水) 午後7時から午後8時半		
開催場所		川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真理、西原千佳子、横谷弘務、久保田啓子、細見美咲、石伏淳子、大西僚、名畑龍史、丸谷満、山中彩永		
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコセンター長、吉尾豊スタッフ		
	事務局	石田総合政策部長、金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、 岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会  2 議事 (1) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画 めざす状態、必要な取り組み、それぞれの役割について  3 閉会		

## **1 開会**

### **○事務局**

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となります。

本日は、委員が1名欠席、1名が遅れての出席とのご連絡をいただいている。

したがって、本日の出席委員は、定数13名中11名。

本日は、川西市市民活動センター長である三井ハルコ氏、市民活動担当スタッフの吉尾豊氏が、オブザーバーとして、出席いただいている。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

### **○岩崎会長**

さきほど、事務局から報告いただいたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

それでは、議事に入る前に事務局から参考資料について説明をいただきたい。

### **○事務局**

参考資料1 説明 事業者ヒアリングの結果について

### **○岩崎会長**

事業者と地域の関わりについて、ビラ、チラシなどは柔軟に対応するという事業者もあれば、会社の方針として行政のものに限ると、対応が異なっている。市民活動センターで事業者と地域の関わりについて、今何らかのかたちで動きはあるのだろうか。

### **○三井氏**

多様な方が様々な案件でセンターを訪ねてこられる。特に地域に入っていきたいという事業者が来た際、コーディネートする場合がある。

### ○岩崎会長

その際、事業者は地域とどの様につながりたいと思っているのか。

### ○三井氏

会社は営利を目的としているので、市民活動と同じ切り口ではない。しかし地域と関わり、何らかの役割を得て自分たちが出来ることをやろうと思っている。そのためには、どこから参入していくとよいのか考えてコーディネートしている。そこで例えば自治会長やコミュニティを紹介したり、市民活動センターが行っている活動の場を使って、マッチングしたりして、どの様な活動で参入できるかの感触をつかんでもらっている。

### ○岩崎会長

本日は、これからめざすべき状態があってそこに向けて、現状からつないでいく話を後半にする。その際、主語を考える必要があり、事業者も主語としてあるはずだと思う。

### ○三井氏

事業者も広義のまちづくりに関わっていきたいと考えている。それがどのような形でどのような役割で入っていけばよいかを知りたくて、市民活動センターに来られていると思う。

### ○岩崎会長

ヒアリングで明確には出ていないが、事業者も地域を支えたいという思いを持っている。事業者に何を期待していくのかを、改めてここで話し合いをし、その結果を事業者にたずねてみるというかたちもあり得ると思う。

### ○三井氏

最近はそういう事業者が入ってくる傾向が強くと感じる。

## ○岩崎会長

地域に高いアンテナを立てる事が必要だと、あらためて認識が広まっている。

事業者という主語も少し頭に入れて、これから検討していただきたい。

では、引き続き、参考資料の説明をいただきたい。

## ○事務局

参考資料2 説明 市民アンケートクロス集計分析について

## ○岩崎会長

クロス集計結果から気づいた点をまとめている資料である。

1 ページ目にて、「自治会に加入していない」を選択した人は地域のことに興味がないわけではないが「地域情報をどこからも得ていない」を選択した人の割合が自治会加入していない人は2倍に見える。ここが特徴的だとある。要するに自治会に加入していないと地域情報が届けられていない。

クロス集計を行うことによりこのような課題が出てこればいいと思っていた。

また、2 ページにて、地域活動に参加している人は時間はとられるが、地域活動に参加していて地域に関心がある人は時間をとられたり煩わしいと感じる比率は地域に関心がない人に比べると低いと言える。そのような読み方もできるし、参加していない人は地域に関心があるないに関わらず、「参加の仕方が分からない」が最も大きな要因だという分析が可能である。

「参加の仕方が分からない」というのは、この参画と協働の推進計画を作ってきて常につきまといわれている問題であると感じる。ではこれをどのように克服するかがひとつ大きな現状の課題である。この点についていかがだろうか。

## ○横谷委員

自治会にも格差がある。非常に自治会が熱心なところは加入率も高い。ところがどちらかというと川西全体でいえば自治会の加入率が低い。これは市全体のデータのため、全てに反映はしていないと思う。

自治会に入っていないと情報が入らない、そうだと思う。やり方もわからない。地域差があるので一概にそうとは限らないが、そのような人がいるということは、そういう人に声をかければ自治会に入ってもらえるという過程がこれから読み取れると思う。

### ○丸谷委員

地域活動に参加していない理由に、「体力面で負担がある」とあるが、これを説明の中で省かれた理由はあるか。

### ○事務局

特に何か恣意的なものではない。時間の関係上である。

### ○丸谷委員

体力面で負担というのも2通りあると思う、1つ目は本当に体力がないため、どのような活動も無理である。2つ目は参加の仕方が分からない。どのような活動があるか分からないため、活動内容のイメージをして、参加した際体力的に耐えられるか分からないため、予防線を張っている。2通りあると思う。

ここもこの言葉を選択しただけではなかなか読み取れない。そういう人もある一定数はいると思うため、時間の関係上説明を省いたという事で大丈夫だが、この数字も大事ではないかと思う。

### ○岩崎会長

地域活動に参加していない理由に、地域に関心があるなしとともに体力面で不安、負担との回答が並んでいる。ではそれが本当にそうなのか、それともイメージとして持っているだけなのかというのは違う。

活動の具体的内容（体力の負担度）の周知が大事ではないかと思う。

活動に参加しない、難しい理由が「体力がない」であれば、それをどうするのかという事も考えていくべきである。

## ○事務局

体力面の話、この質問だけでは本当に体力がないのかは分からないが、年代別や職業別で見ることで、体力面で不安があるのが高齢の方が多いか、また別の年代の方でも多かったりするのかな、そのあたりをもう一度確認していきたい。

また、以前の審議会でも活動に参加してもらうためには、具体的にどの程度の役割を担って欲しいのかということ発信することが大事ではないかという話もいただいている。

漠然と手伝ってくださいではなく、1時間でいいから手伝ってくださいであるとか、具体化することで体力面、時間面での不安を少なく出来る形の広報を広めていきたい。

## ○岩崎会長

他にも面白い結果となりそうなクロス集計方法はないだろうか。

## ○横谷委員

この体力面でのパーセントからすると、ほとんど高齢者だと思う。高齢者対策として自治会活動が活発なところは高齢者を見守り対象とされているところもある。このパーセントでは当然だと思う。

体力的には80歳を超えた方については非常に多い。地域とは違うので、素直にとればいいと思う。しかし、それに対して自治会に入っていない理由については、色々な課題がある。

## ○岩崎会長

他に気付いたことがあれば、事務局に申し出いただきたい。

## **2 議事 (1) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画 めざす状態、必要な取り組み、それぞれの役割について**

## ○岩崎会長

それでは、次第の「2 議事 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画 めざす状態、必要な取り組み、それぞれの役割」について事務局より説明をいただきたい。

## ○事務局

資料1 説明 参画と協働のまちづくり推進計画イメージ

## ○岩崎会長

それでは、事務局から説明があったとおり資料1の3ページ、イメージ図を見ながら、各グループで「めざす状態」を一旦まとめていただき、それぞれ(市民・市民公益活動団体・事業者)の役割についても、意見を出し合っていたきたい。

Aグループは、田中副会長、Bグループは、藤本副会長に進行役になっていただき、書記は事務局、発表は、委員のどなたかにお願いしたい。

テーマは、「めざす状態、それぞれの役割について」

今から40分間話し合っていたきたい、その後、5分間でまとめをしていただき、各グループの発表を3分でお願いしたい。

## ○グループに分かれて話し合い

(主な意見)

### Aグループ

子育て世代に目を向けて、若い世代に入ってきてもらう。きっかけを提供。川西市を好きになる、地域愛があることは、とてもいいことである。各自治会のいいところをもっとオープンにしていく。必要性を感じてもらう。自治会員が少なくなり、役員になるのが負担。高齢者が多い。高齢者には、豊富な知識がある。それを伝授していけるような、逆転の発想をしていく。何かできることがないのか、できることをする。有償ボランティアも考えたらよいのではないか。多くの交流の場をつくり、住みやすいまちにしていく。地域で役割のある自治会の活動を活発にすることが気がついたら参加していることではないか。

### Bグループ

目標は、知ってもらい、関心を高めて、参加してもらう。

自治会は、会費を払うのがネック。使われ方がはっきりすればよいのではないか。

子どもたちは、自治会にクラブや習い事感覚で入れればよいのではないか。子ども会には、子どもを思うと行かせてあげたいが負担が先に立ってしまうのではないか。

市がバックアップだけでない、市民が市をバックアップすることもある。自分が参加できていないのは、なぜなのか、市の職員も考えてもらいたい。

みんなやっているといった捉え方は、自分事として、良いふうに転用できればいい。市民の意見がカタチになりやすいまちがいい。みんなが自分事として、何か1つプラスの活動をする。そのことが、気がついたら、まちづくりに関わっていたといったことではないか。

## ○各グループのまとめ

## ○各グループの発表

### ○Aグループ発表

A班で話し合った結果を発表させていただく。

まず、めざす状態について多くの時間を使い話し合いをした。めざす状態として前回大まかに出ていたが、前回欠席していたため、グループの皆の意見を伺った。

まず、まちとしてめざす状態は、若者に増えて欲しい。その点についてみんなで意見を出し合った。

若者、まず30代かつ子育て世代に増えていただき、起爆剤として若者の人口を増やすような取り組みをしたい。

そのための意見としてあがったのは、事業者をからめて、他市等でやっていると思うが、クーポンを配布して、子どもが生まれたら電動自転車やおむつ等を購入できるようなクーポンを配布すると、事業者もからんで、お互いにウィンウィンになるのではないかと。

あるいは、学力の向上する学校があるということがわかれば、他市から子育て世代が入ってきやすいのではないかと。そのような話があがった。

起爆剤として若い世代に入ってもらい、自治会に意識を向けてもらいたい。主に、自治会をいかに活用していくかがA班の話の中心になった。

自治会にいかに参加してもらおうか。そのためには見える化である。自治会の活動をもっとわかりやすく、活動内容と共に役員の仕事を伝える事によりなるべく敷居を低くしたい。会費を徴収して企業に活動を手伝ってもらい負担を軽減し、隙間時間で出来てしまう自治会活動もあることを前面に押し出したい。かつ自治会に入ると良いことがある事。例えば防災力の面で、最近多い特殊詐欺なども、自治会の声かけによりうちの地域は安全である等、そのような話が出来るとはならないかと話した。



いろいろな人に自治会に参加してもらいたい。障がい者や高齢者というと、支援を受ける側というイメージをもちがちだが、発想を逆転して、皆の活躍できる場、得意分野を引き出せる場にもなり、交流の場として、自治会を使ってもらえるとよいのではないかと話した。

そのために市や、事業者が主にまず先行投資として予算をつけてもらうなどの協力、自治会の見える化では広報に手伝いをしてもらえられたらありがたいというお話にまとまった。

## ○岩崎会長

それではB班お願いします。

## OBグループの発表

B班で話し合った結果を発表させていただく。

B班では、“参画している”や“協働してる”というように、いかに当事者として感じられるかを理想にしたいところから話がスタートした。

最初に、“参加してもらう”、“知ってもらう”、“関心を高める”の3つのワードがある。これは三角形の状態になっており、中心が未来、理想の状態になっている。こちらのワードをひとつ絞って考えようとした過程で、“気づいたら地域の何かに当事者として参加している”状態が理想の状態であると考え、これを中心に据えて議論を進めていった。この状態を作り上げるために、“知ってもらう”、“関心を高める”、“参加してもらう”がそれぞれ対等な状態で影響し合い、それぞれの切り口があって良いという話になった。

ひとりひとりがどういう状態で入っていくかというのも影響しあう。三角形の状態の外側に、団体の役割、市民の役割、事業者の役割、市の役割の四角形で囲む状態で影響し合い、支えあうまちづくりをしていくのが良いと考えた。

それぞれに“参加してもらう”、“関心を高める”、“知ってもらう”ためにはどのような役割があるのかを具体的に考えて行くのが良いとなりました。

市役所であれば、どのような役割があるのかを知ってもらいたいと考えたとき、やはりお金。人を動かすためのお金が必要になってくるのではないかと。逆に市役所はどうすれば参加してもらいやすいのか、知ってもらいやすいのか、関心を高めてもらいやすいのかを教えていただきたいという意見があった。

事業者であれば、コミュニティに増えてきているが、寄り添うような事業をしていたり、自治会と連携して何かをしようという事業者も増えてきているので、自治会との連携を深めていく、市民団体とも連携を深めていくという流れに乗り地域とのつながりを深めていけるとよい。

自治会であれば役員をすることにより、半強制的ではあるが地域の何かにつながっていくという役割を担っている。

あと、市民であれば、ひとりひとり出来ること、なにか担えること、何かひとつ、小さなことでよいので地域とつながることって何か、自分ができることは何かを考えて、一歩で良いので何かやってみる。その小さなハードルの低い何かを見つけて実践するというのが役割として、目標にしてはよいではないかという話し合いになった。

### ○岩崎会長

今日出てきたことについてもう一度事務局でまとめていただき、次回はこれをベースにある程度固まっためざすべき状態に向けての手法である推進計画の骨子について、議論を進めていきたい。

委員から何もなければ、進行を事務局にお返ししたい。

### ○事務局

次回の推進会議は、3月15日(水)19時から開催させていただきたい。

(終了)